

たすく療育・横浜センター南 事業所における自己評価結果(公表)

平成31年1月調査 ○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	6			
	2	6			
	3	6		個々に応じたスケジュールやカードを使用している	
業務改善	4	6		個人別の記録をスタッフ間で共有している	
	5	6		保護者アンケートを定期的にとっている	
	6	6		スタッフ全員がアクセスできるグーグル・iCloudを利用して共有している	
	7	5	1	完全な外部からの評価はまだ実施できていないが、教室間での意見交換はしている。	
適切な支援の提供	8	6		定期的に社内研修を行っている	
	9	6		年に一度、保護者・支援者一同に会して、アセスメントと協議の時間を設けている	
	10	6			
	11	6			
	12	6			
	13	6			
	14	6		教材や体づくりの内容を月によって変えることができています。	
	15	6			
	16	6			
	17	6			
関係機関や保護者との連携	18	6		写真や動画を活用している。	
	19	6			
	20	6			
	21	6		必要に応じて学校・園・支援機関へ訪問している。支援会議に参加している。	
	22	6		医療的ケアが必要なケースがない	
	23	6		医療的ケアが必要なケースがない	
	24	6		必ず出向くことはできていないが、サポートシートなどを作成して親御さんから渡している	
	25	6		個別の支援計画や療育記録を保護者を通じて共有している	
	26	6			
	27	3	3	園との交流の機会は作れていないが、障害のない兄弟児との活動の機会は多い	
保護者への説明責任等	28	5	1	全員のスタッフは参加できないが、参加したスタッフから内容を共有している	
	29	6		療育の時間以外にもSNSを活用してやりとりしている	
	30	6		毎月1～2回学習会を開いている	
	31	6			
	32	6			
	33	6		来室以外にも、SNS、メール、電話等で対応している	
	34	6		家族会活動を毎週日曜日に開催している	
	35	6		担当者が定期的にコンタクトを取り、必要であればケース会を開き、チームで対応している	
	36	6		月次予定表を配布している	
	37	6		鍵のある棚に保管している	
非常時等の対応	38	6		スケジュール・コミュニケーションは子に合ったツールを用意している	
	39	6		地域の人が参加できるノルディックウォーキングを開催	周知の仕方に工夫が必要
	40	6			
	41	6			
	42	6			
	43	6			
	44	6		ケース会議を開いて記録している	
	45	6			
46		6	身体拘束を行うケースがない		